

白石城年表

天正	19年（1591）	蒲生氏郷、会津73万石を拝領、白石城を蒲生源左衛門郷成に預ける
文禄	4年（1595）	上杉景勝、会津領を拝領、白石城に甘粕備後を入れる
慶長	5年（1600）7月24日	伊達政宗、上杉領の白石城を攻撃
	8月14日	政宗、白石城を石川昭光に預ける
	7年（1602）12月	片倉景綱、白石城を拝領
正保	3年（1646）	地震のため石垣壁櫓など崩れる
寛文	元年（1661）	破損により再鑄していた鐘が完成し、掛けられる
元禄	5年（1692）	坂口門東廐曲輪南之方土手土留石垣崩れる
享保	16年（1731）	大地震にて石垣、櫓、堀など多くの箇所が損壊
寛保	3年（1743）	御勘定所出火
宝暦	6年（1756）	大烈風のため、城内の松が折れる
文政	2年（1819）	白石城焼失
	6年（1823）	大櫓再建成就
	12年（1829）	御城巽角櫓、石垣4か所完成
弘化	元年（1844）	烈風のため城など大破
慶応	2年（1866）	太鼓堂、東御門に移る
明治	元年（1868）10月9日	白石城、片倉家より白川口総督府へ引き渡し
明治	2年（1869）4月11日	白石城を南部氏へ引き渡し
	8月13日	南部旧白石藩知事が白石城へ入城
明治	3年（1870）9月28日	三陸磐城両羽按察府廃止、白石城は旧片倉家中開拓役所預かりとなる
	10月15日	白石城売却代金を北海道開拓費用に充てるようお願い、元按察府の許可を得る
明治	4年（1871）4月	旧白石城が兵隊屯所となり、御親兵が入城、三の丸の居家を壊して調練場として洋式調練を行う
明治	7年（1874）	白石城を家禄奉還士族、御代田円ハら5名に払い下げる
明治	33年（1900）	東宮殿下御慶事記念として白石城址を益岡公園とすることを決定
明治	39年（1906）	神明社が現在地に移転
大正	4年（1915）	本丸跡に片倉小十郎頌徳碑建碑、神明社参道脇に片平親平翁頌徳碑建碑
大正	6年（1917）	公園地拡張のため城址1町4反5畝7歩を片倉男爵家より300年無償で借用
昭和	38年（1963）	白石城本丸付近の土地所有が片倉家より市に譲渡移管
		白石市営野球場落成
昭和	44年（1969）	本丸跡整備
昭和54年（1979）～58年（1983）		西側芝生広場整備
平成	7年（1995）5月3日	復元三階櫓、大手門の一般公開開始

片倉小十郎の城としても名高い白石城一。

この城は、時代の転換期に登場し、

その一つ一つに多くの秘話を秘めている城です。

今回の企画展「資料でたどる～わたしたちの白石城～」は、

平成7年（1995）に白石城が木造で復元され、

それから30周年を迎えたことから開催いたしました。

現在も白石市のシンボルとしてそびえたつ

白石城の歴史をご紹介できればと思います。



白石城之図（小関雲洋筆 白石市教育委員会蔵）

発行日 令和7年（2025）10月3日
編集・発行 白石市教育委員会、
東北大学東北アジア研究センター上廣歴史資料学研究部門

本誌は、白石城歴史探訪ミュージアム2階展示室で
令和7年（2025）10月3日から12月21日の期間に開催した記念企画展のパンフレットです。

白石城開門30周年記念企画展パンフレット
資料でたどる～わたしたちの白石城～



戦国時代の白石城

天正19年(1591)、天下統一を果たした豊臣秀吉は白石を含む刈田郡を伊達政宗から没収し、蒲生氏郷に与えます。

蒲生氏が入国したことにより白石城は現在の姿になったと考えられます。関ヶ原の合戦後、再び政宗の領地となった刈田郡に慶長7年(1602)、伊達家の重臣片倉小十郎が入り、以後片倉家が戊辰戦争まで城主をつとめました。

復元前の白石城

慶長7年から続いた片倉家の支配は、戊辰戦争の敗北によって終了し、明治7年(1874)に白石城は解体され、その部材は売却されました。このとき移された城門がお寺の山門になるなど、市内のさまざまなところに白石城の面影が残っています。



二の丸大手二ノ門(現在：当信寺山門)



厩口門(現在：延命寺山門)

白石城復元の歩み

白石城解体後、白石城の跡地は公園として活用されました。住民からは「お城山」と慕われ、桜の名所としても有名になりました。

城郭が姿を消して100年以上を経過した昭和62年(1987)に大きな転機が訪れます。同年にNHK大河ドラマ「独眼竜政宗」が放映され、そこでは伊達家の重臣であった白石城主片倉小十郎にも注目が集まりました。

これを受けて市民による復元に向けた活動があり、白石市では第三次総合計画のなかで復元を市の政策として明記されるなど、官民ともに復元の機運が盛り上がっていました。その後、「益岡公園整備基本構想検討委員会」が設置され、委員会からは「白石城はできる限り旧白石城と同じ規模、建築方法による復元を目指す」という答申がありました。

その答申から復元の実現に向け「史料調査委員会」の発足や「白石城調査指導委員会」の指導のもとに発掘をおこない、文献と考古学の調査結果から、白石城を復元することになりました。



復元前の白石城(三階櫓)



発掘された白石城(三階櫓跡)

白石城の復元

白石城の復元では、発掘調査の結果や絵図などから、最も形をはっきりとらえることのできる文政6年(1823)に再建された三階櫓を復元対象としました。

復元では、吉野の檜や青森のヒバ、山陰の松丸太と赤杉など、多くの国産部材を用い、石垣は箇所に応じて「野面積み」や「打ち込みハギ」に、壁は漆喰、鯨瓦は職人の手作りで再現するなど、江戸時代の状態を忠実に再現することを目指して取り組み、平成7年(1995)5月、白石城は120年ぶりによみがえったのです。

白石城が完成するまで

①石を積む



②木を組む



③壁を塗る



④瓦を葺く



⑤完成

